Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第23号
2023年（令和五年） 9月22日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

9/7～9/13のNYMEX・WTI先物市場は86.87～88.84ドルの範囲で推移した。

9月14日は、先週のサウジ・ロシアの年末までの追加自主減産の継続発表の中、今週の石油輸出国機構（OPEC）、米国エネルギー情報局（EIA）、国際エネルギー機関（IEA）の相次ぐ、年末に向けての需給ひっ迫・原油価格上昇の予想で、上昇、2022年10月以来10か月ぶりの高値、90ドル台に乗せた。中国の景気対策としての銀行預金準備率の引き下げ発表があり、欧州中央銀行（ECB）では0.25%の金利引き上げが決まったものの、利上げの打ち止めが示唆されたことから、中国・欧州の景気回復期待が強まったことも上昇要因。10月物終値は前日比1.64ドル高の90.16ドル。

週末15日は、中国の8月の鉱工業生産高、小売売上高が堅調な数字を示し、前日の　金融緩和措置と相まって、中国経済の回復期待が高まり、続伸した。10月物終値は同0.61ドル高の90.77ドル。

週明け18日は、引き続き、中国の景気回復期待、ドル安進行に伴う原油先物の割安感で続伸した。ただ、サウジのアブドラアジズ・エネルギー相は、中国経済の先行き不透明感を踏まえ、OPECプラスの現行減産方針を支持した。10月物終値は同0.71ドル高の91.48ドル。

19日は、このところの高値による利益確定売り、為替市場のドル高に伴う原油先物の割高感、株式市場の下落に伴う投資家のリスク回避により、4営業日ぶりに反落した。ただ、一時は93ドル台を付け、また、先行き需給ひっ迫感は強く、底値は固かった。10月物終値は、前日比0.28ドル安の91.20ドル。

20日は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が市場公開委員会（FOMC）で、金利据え置きを決定したものの、年内の追加引き上げを示唆したことで、米国の景気後退が懸念され、また、最近の高値による利益確定売りもあり、続落した。ただ、米国石油在庫統計は、原油・石油製品とも、前週比、市場予想を上回る取り崩しで、米国内の石油需給の引き締まりを示した。10月物終値は前日比0.92ドル安の90.28ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月7日～13日の間、90.60～93.10ドルの範囲で推移。9月14日93.40ドル、15日95.00ドル、19日94.90　ドル、20日93.10ドル。

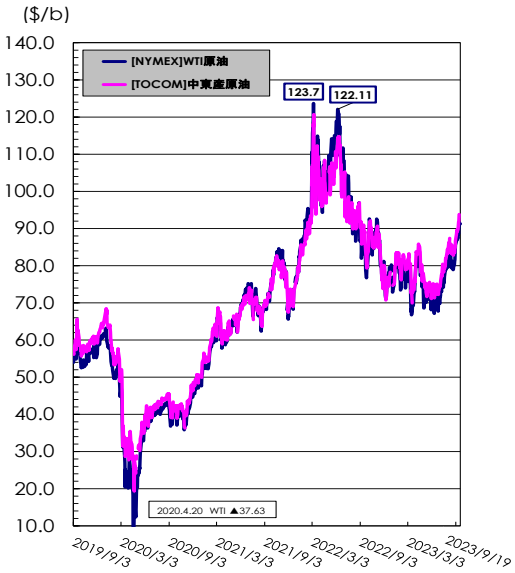
対ドル為替レート（TTM）は、9月7日～13日の間、146.72～147.94円の範囲で推移。9月14日147.17円、15日147.62円、19日147.73円、20日147.84円。

財務省が9月20日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は75,656円で前旬比1,756円高、ドル建て83.42ドルで前旬比0.83ドル高、為替レートは1ドル/144.19円。また、8月月間の原油輸入平均CIF価格は73,467円で前月比1,414円高、ドル建て82.04ドルで前月比1.57ドル高、為替レートは1ドル/142.36円。

そのような中で、9月19日時点の価格は、ガソリンが前週比2.8円の値下がり、軽油も同2.7円の値下がり、灯油は同28円の値下がり（18リットルベース）。ガソリン・灯油・軽油ともには2週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は182.0円となった。

9月7日から燃料油価格激変緩和補助金は延長・拡充され、9月21日～27日の補助金の支給額は30.5円（従来ベースの補助額42.4円、17円以下部分は30%支給で5.1円、17円を超える部分は100%支給で25.4円）となった。

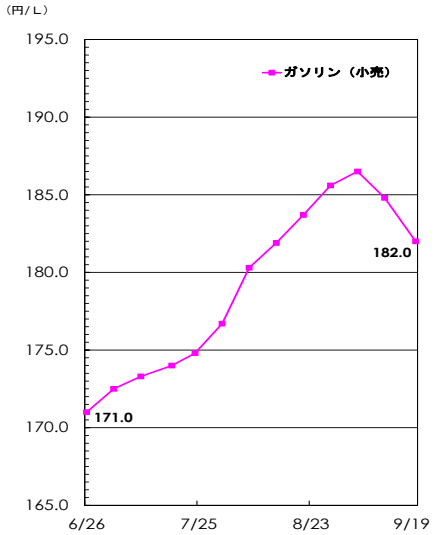
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	9/10 ～ 9/16	2,821	▼ -28	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	76.1	▼ -0.8	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	9/16	11,540	▲ 44	▲ －
価格	中東産原油（TOCOM）	（$/bbl）	9/19	93.70	▲ 3.90	▲ 4.5
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	9/18	91.48	▲ 4.19	▲ 5.8
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	8月下旬	83.42	▲ 0.83	▼ -29.04
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	75,656	▲ 1,756	▼ -19,998
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	144.19	▼ -1.96	▼ -8.97
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	9/19	148.73	▼ -0.76	▼ -4.45



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/10 ～ 9/16	734	▼ -192	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	702	▲ 37	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -91	▼ –
	在庫		9/16	1,624	▲ 32	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/12 ～ 9/18	83.0	▼ -2.3	▲ 6.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ～ 9/18	90.0	➡ 0.0	▲ 11.4
		(TOCOM/中部)	9/15	87.5	➡ 0.0	▲ 12.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/19	182.0	▼ -2.8	▲ 12.3

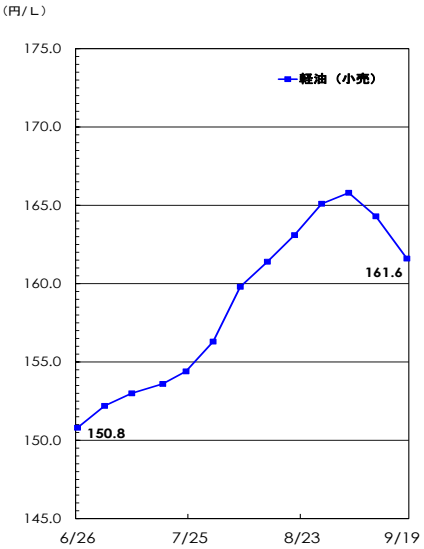
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

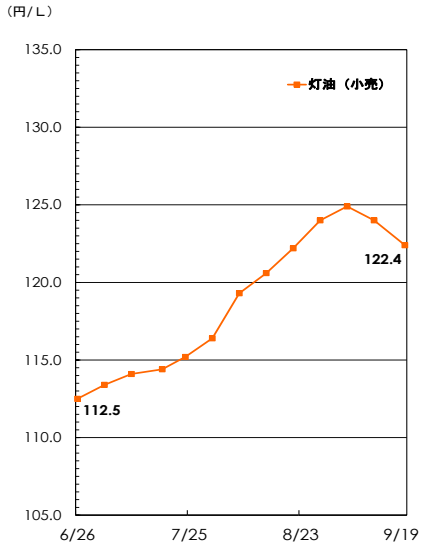
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/10 ～ 9/16	717	▼ -48	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	644	▲ 48	▲ –
	輸出		〃	148	▼ -48	▼ –
	在庫		9/16	1,341	▼ -74	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/12 ～ 9/18	82.4	▼ -4.2	▲ 5.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ～ 9/18	87.9	▼ -3.1	▲ 8.5
		(TOCOM/中部)	9/15	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/19	161.6	▼ -2.7	▲ 12.0

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/10 ～ 9/16	199	▼ -24	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	40	▲ 2	▼ –
	輸出		〃	73	▲ 23	▲ –
	在庫		9/16	2,577	▲ 86	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/12 ～ 9/18	82.7	▼ -4.3	▲ 5.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ～ 9/18	88.0	➡ 0.0	▲ 9.3
		(TOCOM/中部)	9/15	86.2	➡ 0.0	▲ 9.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/19	122.4	▼ -1.6	▲ 10.0



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（9月14日～20日）のWTI石油先物市場は、14日に10か月ぶりの90ドル台の90. 16ドルで始まり、19日には一時93ドル台まで上昇したものの、終値では下落し、20日は続落の90.28ドルで終わった。先行きの需給ひっ迫懸念が強い中、今後の景気動向への見方が分かれた。

9月20日発表の15日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比210万バレル減（市場予想同220万バレル減）、ガソリンが同80万バレル減（市場予想同20万バレル増）の取り崩しであった。

EIAによると、9月18日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.6セント値上がりの1ガロン3.878ドル（152.1円/㍑）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比9.3セント高と9週連続の値上がりの1ガロン4.633ドル（181.7円/㍑）。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、9月15日時点で、前週比2基増の515基と2週連続の増加。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年9月10日～9月16日に休止したトッパー能力は51.2万バレル/日で、前週に対して8.6万バレル/日増加した（全処理能力は333.1万バレル/日）。

原油処理量は282.1万klと、前週に比べ2.8万kl減少。前年に対しては26.6万klの減少。トッパー稼働率は76.1%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては4.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/20.8%減、ジェット/9.4%増、灯油/10.9%減、軽油/6.3%減、A重油/8.9%増、C重油/10.4%増。今週のC重油の輸入は0.7万kl（前週比0.7万kl増）。軽油の輸出は14.8万kl（前週比4.8万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べて全ての油種で増加した。前年比では軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は70.2万kl（対前週5.5%増）と2週振りに増加した。ジェット5.6万kl（対前週1529.2%増）、灯油4.0万kl（対前週7.4%増）、軽油64.4万kl（対前週8.1%増）、A重油15.4万kl（対前週15.5%増）、C重油19.6万kl（対前週33.0%増）。

（単位：千KL）

	今週 (9/10 ~ 9/16)	前週 (9/3 ~ 9/9)	前週比	
ガソリン	702	665	▲ 37	(6%)
ジェット燃料	56	3	▲ 53	(1767%)
灯油	40	38	▲ 2	(5%)
軽油	644	596	▲ 48	(8%)
A重油	154	133	▲ 21	(16%)
C重油	196	147	▲ 49	(33%)
合　計	1,792	1,582	▲ 210	(13%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

9月16日時点の在庫はガソリン、ジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットと軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは162.4万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては2.6万kl多い。

灯油は257.7万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては48.9万kl多い。

軽油は134.1万kl、前週差7.4万kl減。前年に対しては8.1万kl少ない。

A重油は78.6万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては6.5万kl多い。

C重油は209.5万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては32.5万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (9/16)	前週 (9/9)	前週比	
ガソリン	1,624	1,592	▲ 32	(2%)
ジェット燃料	844	836	▲ 8	(1%)
灯油	2,577	2,491	▲ 86	(3%)
軽油	1,341	1,415	▼ -74	(-5%)
A重油	786	774	▲ 12	(2%)
C重油	2,095	2,098	▼ -3	(-0%)
合　計	9,267	9,206	▲ 61	(0.7%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

9月12日～18日のドル建て中東原油価格は大きく値上がりし、為替レートはほぼ横ばいだったが、元売会社の卸価格建値は3.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額26.1円を加え、今週の補助金30.5円を差し引いた、9/21～9/27の実質卸価格は1.4円の値下げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

9月12日～18日の製品スポット市況は、9月5日～11日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の横ばいを除いて、他の全ての取引で値下がりした。

直近週（9/12～9/18）の陸上スポット価格平均値は、前週（9/5～9/11）比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油も4.3円の値下がり、軽油も4.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（9/12～9/18）に、前週（9/5～9/11）比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油も4.2円の値下がり、軽油は3.2円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は3.1円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔ℓ）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(9/12 ~ 9/18)	前週　(9/5 ~ 9/11)	前週比
スポット価格	レギュラー	83.0	85.3	▼ -2.3
	灯油	82.7	87.0	▼ -4.3
	軽油	82.4	86.6	▼ -4.2

（TOCOM）　（単位：円/㌔ℓ）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(9/12 ~ 9/18)	前週　(9/5 ~ 9/11)	前週比
先物価格	レギュラー	90.0	90.0	➡ 0.0
	灯油	88.0	88.0	➡ 0.0
	軽油	87.9	91.0	▼ -3.1

※上記価格は税抜き価格

参考値　（9/12～9/18実績値）　（単位：円/㌔ℓ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.3	➡ 0.0	▼ -1.2
灯油	▼ -4.3	➡ 0.0	▼ -2.1
軽油	▼ -4.2	▼ -3.1	▼ -3.6
A重油	▼ -4.5		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

9月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.8円安の182.0円、軽油も2.7円安の161.6円、灯油も18㌔ℓベースで28円安の2,204円（1㌔ℓベースでは1.6円安の122.4円）。ガソリン・軽油・灯油ともに2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりが47都道府県だった。全国最安値は岩手県の176.5円、その次は北海道の177.6円であった。他方、最高値は長崎県の192.0円だった。最も値下がりしたのは島根県と石川県（同5.1円安）だった。

次回調査時（9/25）のガソリンの小売価格は、補助金の増額により、値下がりが予想される。

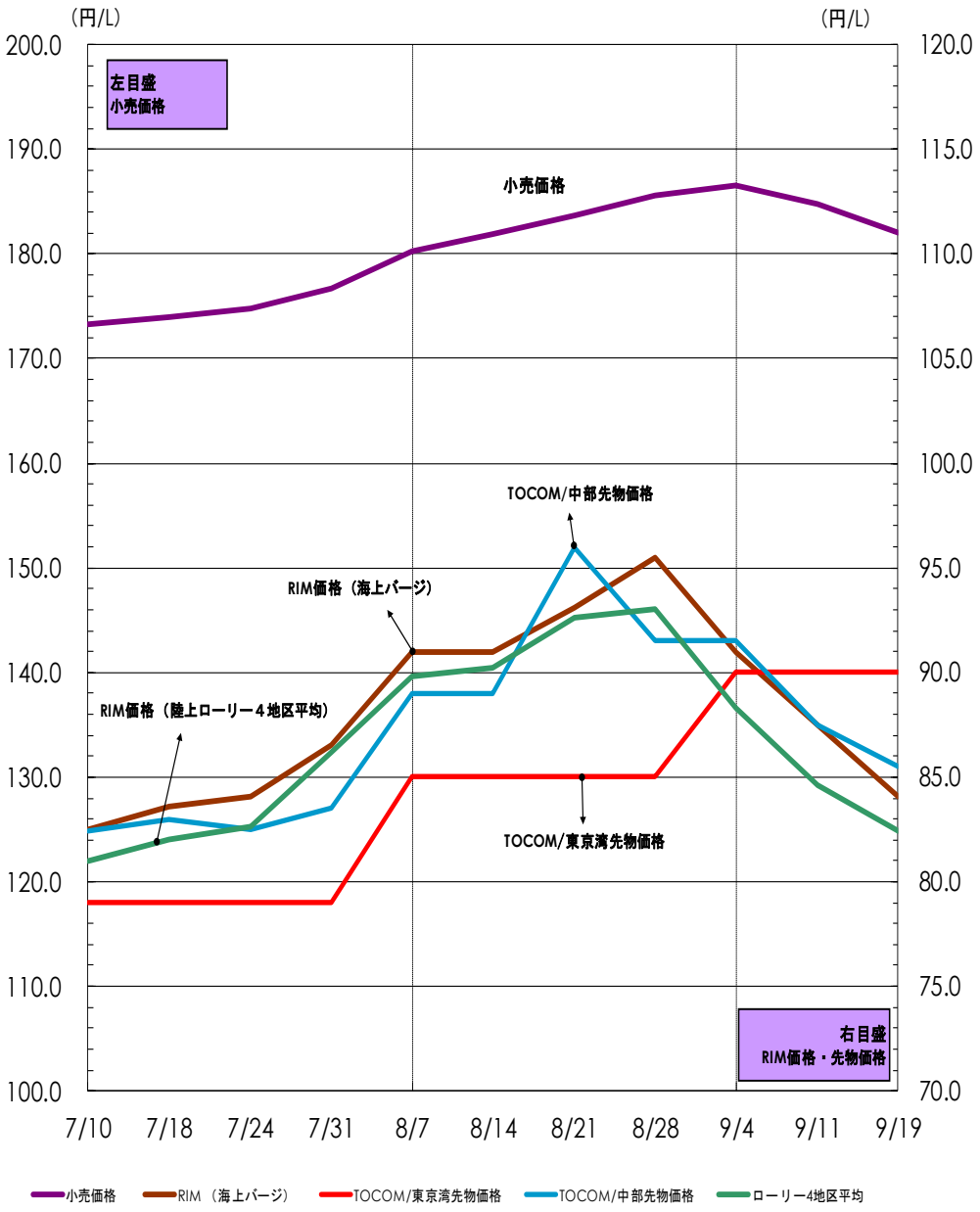
（単位：円/㌔ℓ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(9/19)	前週　(9/11)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	182.0	184.8	▼ -2.8	23/9/4	186.5
	灯油	122.4	124.0	▼ -1.6	08/8/11	132.1
	軽油	161.6	164.3	▼ -2.7	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/7/10　～　2023/9/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第24号）の公表は、9/29（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。